

自己評価結果(令和6年度)

川辺町第2こども園

評価項目	評価内訳(割合)		
	できている	少しできている	できていない
第1章 総則 教育・保育の基本	88.2%	7.5%	4.3%
1. 教育・保育の基本	91.1%	3.6%	5.4%
2. 教育及び保育の配慮	89.5%	10.5%	0.0%
3. 教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価	94.3%	2.9%	2.9%
4. 特別支援教育・障がい児保育	72.2%	2.8%	25.0%
5. 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」	50.0%	50.0%	0.0%
6. こどもの発達	98.2%	1.8%	0.0%
第2章 「ねらい」及び「内容」	93.7%	2.4%	3.9%
1. 乳児保育に関わるねらい及び内容	95.0%	2.5%	2.5%
2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容	95.6%	2.0%	2.5%
3. 保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)	75.0%	7.5%	17.5%
4. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容	94.3%	2.0%	3.8%
第3章 健康及び安全	84.2%	11.2%	4.6%
1. 健康支援	80.4%	12.5%	7.1%
2. 食育	97.7%	2.3%	0.0%
3. 環境・衛生管理、安全管理	77.3%	15.9%	6.8%
4. 災害への備え	82.7%	13.5%	3.8%
第4章 子育て支援	85.1%	9.5%	5.4%
1. 園児の保護者に対する子育て支援	87.5%	7.5%	5.0%
2. 地域における子育て支援	82.4%	11.8%	5.9%
第5章 職員の資質向上	95.0%	0.0%	5.0%
合計	90.7%	5.1%	4.2%

達成状況	できていること	できるとよかったこと
第1章 総則 教育・保育の基本	・子ども達の主体性を引き出すような活動計画をし、子ども一人一人の特性や発達に即した援助を行うようにしている。 ・全体的な計画、指導計画の作成をしながら、教育及び保育の期間や子どもの生活経験、発達の過程などに考慮してねらいと内容を設定し、全職員で共通理解を図り、取り組むことに努めている。 ・子ども達の発達記録や園での行動や活動の様子から専門機関の助言をもとに保護者の相談に応じたり情報を提供したりしている。	・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体的に細かく説明するスキルが低い。 ・特別支援教育についての適切な情報や保育する上で必要な知識などを得る機会が少ない。
第2章 「ねらい」及び「内容」	・子どもの探索活動を満たすような活動や体を適度に動かす遊びやリズムを伴った触れ合い遊びを取り入れるようにしている。 ・生活に必要な言葉に気付きやすいように丁寧な説明や、分かり易い言葉掛けをしながら、繰り返し伝えて確認するようにしている。	・見る、聞く、触れる、嗅ぐなどの感覚の働きが今まで以上に豊かで楽しくなるよう環境設定を増やしていく。 ・一人一人の子どもの表現の過程を大切にし、更に自己表現を楽しめるよう活動の工夫をするようにしたい。

第3章 健康及び安全	・日々の子ども達健康状態の把握に努め、感染症などの疑いがある場合は、学校保健安全法などの法令やガイドラインにを踏まえた対応をとるようにしている。また、発生状況や予防対策なども保護者に分かり易く伝えていくように努めている。 ・野菜の栽培や収穫したものを実際に食べてみたり、各家庭へ持ち帰る機会を取り入れたことで子ども達の「食」への興味、関心を深まることができている。 ・様々な災害を想定した訓練を毎月実施しながら、改善点について職員間で話し合い共通の確認がとれている。	・連休明けや週初めと週末は子ども達の中に「眠たい」と訴える子の姿がある為、今後も健康な生活リズムを整えていくように保護者との連携を図っていく。 ・様々な災害を想定し、身近に起き易いことにおいては避難訓練等で、職員間で確認し意識を深めていく。
第4章 子育て支援	・懇談会や個別面談などで保護者が安心して話せる関係を築くことができるよう、些細な相談にも丁寧に応じるように努めている。また、その内容についても職員間で情報共有していくようにしている。 ・保護者の思いや提案を傾聴しながら園全体で受け止めながら随時検討していくように努めている。	・子育てについて、地域の関係機関と連携をとり、様々な相談内容にも対応ができるよう努めたい。
第5章 職員の資質向上	・受講した研修で重要な内容においては全職員で共有しながら保育に関しての新しい知識を習得し、職員間で話し合う機会を設け、多様化するケースへの対応がとれよう、スキル向上に努めてきた。	・子ども達の気持ちに寄り添った保育実践ができるよう、職員同士で日々の保育を振り返りながら客観的な意見に気づき改善が図れるようにしていきたい。

< 来年度取り組むべき課題及び提案 > ・子ども達が思いついたものや感じたものを好きなように描いたり作ったりできるよう材料や用具を取り出しやすい場所に置く等、環境を充実させ、子ども一人一人の心を動かすような活動内容を計画し、『豊かな表現力』に繋がるようにしていきたい。 ・職員間で子ども達の発達の様子を情報共有し、子ども達や保護者の思いに寄り添う中で、安心感や信頼感につながるような関係づくりを築くことができるよう努めていく。 ・職員間で災害についての知識や対応を繰り返し確認し、状況に合わせての速やかな動きや判断力がもてるように、年間の中で訓練を実施していく。	
--	--

< 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行規則第23条による評価 > ・身近な自然を活かして見たり触れたりすることで季節を感じられるようにしている為、子ども達や保育教諭の感性が豊かに感じられる。 ・『食育』においては、子ども達と土づくりからお米を育てることに取り組み精米した後におにぎりにして食することや地域の方とさつまいも苗さしや野菜収穫などの経験したことや町内にある酒造見学したことなど、子ども達の食に対する興味・関心に繋がる工夫がされている為、各家庭への食に対する意識も深めることができ、とても良い取り組みなので続けていくと良い。 ・サッカー教室や体操教室、リミック教室などを取り入れ、子ども達の運動面や表現する力を育てることと英語教室の中で異文化に触れる機会がもてるようになり、今後さらに保育の充実が図れるようになっているので、期待したい。	
---	--